

各地区・市社会教育委員

からの寄稿

二十一年度

近頃思いつこと

蔵王町社会教育委員
三島木 進



私は蔵王の山に惹かれて平成十三年に蔵王町に移住し、同年に発

足した宮城蔵王ガイド協会に加入、平成十六年からは蔵王野鳥の森自然観察センター（ことりはうす）勤務となり、蔵王のガイドや自然観察を通じて蔵王のよさや自然の面白さを伝えてきました。

社会教育委員は平成十八年からですが最初の年が印象に残っています。この年は社会教育関係団体の町施設の利用料について検討し、従来無料であったのを各団体の役割を評価しつつも公平性の原則も導入し二十パーセント程度の

負担をもらうよう答申しました。検討のために社会教育委員会に小委員会を設置して小委員会を四回開催して協議するなど時間がかかりました。

山本壮一郎元知事は、「地方自治は民主主義の学校である」とよく話されましたが、社会教育委員会も意思決定まで手間隙がかかりますがその過程が大切なのだと思います。

地方自治体の役割は住民が生きがいを持って健康で楽しく暮らせる社会を作ることにあると思います。少子化対策とともに年々増加している高齢者対策が重要です。

高齢者が充実した生活を送るためには健康を維持する定期的な運動が必要です。運動をして健康な人が多くなれば国民健康保険財政の健全化にも役立つでしょう。私の場合、六十二歳のときに町で主催するテニス講習会に参加、終了後は町のテニス協会に加入し

てテニスを楽しんでいます。蔵王町は、農業と観光が産業の中心ですが、名峰蔵王山があり、真田幸村の子孫が住んでいたことが最近明らかになるなど、豊かな自然や興味深い歴史があります。社会教育でもこのような町の特性を活かすとともに元気な高齢者に参加してもらう町づくり・人づくりを目指したいものです。

「社会教育に生きた私の人生」

塩竈市社会教育委員
佐藤 貞夫



私は昭和三十年の正月に塩竈市公民館職員に採用され、昭和四十

二年四月の戦後第六回統一地方選挙に出るまでの十二年有餘、公民館職員として社会教育の第一線で社会教育の振興に実務実践した。その後市議になり、学識経験者として公民館運営審議会委員、社会教育委員として三十四年の長く委員をつとめてきた。議員生活とはほぼ同じく私の人生は社

会教育に携わったということになる。

今思えば、当時の塩竈市第二代目の桜井市長自ら公民館長になり、新制中学校一中二中三中の校舎建設の後に、引き続き財政難の折公民館建設に情熱を傾け、市議会に建設の予算を提案し、見事昭和二十五年暮れに完成し昭和二十六年の正月の一月五日の松のうちが開館するという意欲を示し、事実上社会教育がスタートしたものであります。六十年を過ぎた今日、未だ持つて塩竈市の社会教育施設として使用している状況を見ると、当時の桜井市長が今日の生涯学習時代を予見したかのようである。

今、私達は高齢化が進み、生涯学習時代に生きています。が、安心で安全な社会を実現することは政治の基本であると思えますが、日常生活における教育の重要性は誰も否定することはできません。しかし、今日の社会に適応できずにいる方が年々増えているような状況を考えて、家庭教育を見つめ直し、しっかりとした親と子のふれあいの大切さを教え、本当に一人一人が幸せな人生を送ることがで

きるようにしなければならぬと考えるものです。

私は公民館在職中、各種講座を開放して社会教育活動を実践いたしました。今日高齢化社会を迎えましたが、昭和四十一年に老人大学、今の千賀の浦大学を開設しました。当時は、五十一・六十名前後の学級生で、しかもほとんど市内の老人クラブの幹部が入学したものでしたが、今日二五〇名を超す盛況を考えると感無量であり、私も学級員として生涯学習を実践しているところ です。

それにしても気がかりなのは、広域行政を越えて市町村の合併が進み、社会教育委員が減ってきています。県内の状況を見ても明らかです。かつて栗原郡内には築館・鷺沢・金成・栗駒・一迫・瀬峰・高清水・若柳・志波姫の各町と花山村があり、各町村に社会教育委員が十名前後委嘱され、それぞれ各町村の特色ある社会教育活動が行われていたものと思われませんが、現在栗原市に二十名前後の社会教育委員である現状を考えると、また登米市や大崎市、東松島市等を見ると合併により社会教育委員が各市町村の

条例で委嘱されていたことを考えると、大変な減少であり、文部科学省がこのことについて基本的に教育委員や社会教育委員を増やすことを考えていかなければならないと思うものである。

「社会教育委員活動を振り返って」

色麻町社会教育委員

畑 中長 悦



私は、社会教育委員とPTA活動を同時に引き受けて十数年になります。今日までの活動を振り返りますと多くの方々の出会いやふれあいによって大変多くの感動をいただきました。

色麻町の社会教育委員は、小中学校の校長先生方をはじめ、各団体の代表者等で構成され、年三回、社会教育事業・公民館事業・清水コミュニティセンター事業の三つの活動について、委員各位の意見をいただきながら、より良い活動を町民に提供しております。生涯学習は、幼児教育から高

齢者教育まで幅広い事業を展開するため、専門的分野で活躍されている委員さん方のご協力があってこそと心から感謝しております。

また、地区民が指定管理をしております清水コミュニティセンターの活動は、清水小学校の学区民がセンターを管理し、地域ぐるみで活動し、清水小学校の児童や学区民が一体となり多くの事業を展開しています。特に住民と児童との世代間交流は、多くの方より評価されています。また、生涯学習事業として出前講座があります。町内に住む専門的な知識や資格を有する方を講師に迎えて、講習、講話会等を開催し、町内の各団体、組織からの依頼も多く、厳しい社会環境の中で現実経験や体験者のお話は、町民から評価され、各地区からも問い合わせが絶えません。

少子高齢化社会の中で、事業を計画し実践していくには、参加者を募る事業から自主的に活動する方々への支援とバックアップが強く求められると感じます。これからも公民館、社会教育と生涯学習に町民の要望を多く取り入れ、社会教育発展に努めていきたいと思

います。

「心と心の通い合いを育む」

栗原市社会教育委員

大内 恵 子



絵本の読み聞かせボランティアを初めてから四年になります。場所は主に、小学校の朝読書の十分間です。読む本は一冊か二冊。一年生（六年生のクラスごとで）じ

本を間に、読み手と聞き手の心を繋ぎ、育む事が出来ると確信し、活動を始めてから四年になります。場所は主に、小学校の朝読書の十分間です。読む本は一冊か二冊。一年生（六年生のクラスごとで）じまりとした中での読み聞かせを希望致しました。これには理由があり、私の少ない経験の中で培ってきた、これからの世の中を歩き担って行く、子供達への思いがあったからです。読み聞かせを行う事により、人とのコミュニケーション力、自身を見詰め、方向性を見出す力、物事をイメージする事が出来創造の土台となる。言葉や文章の大切さ、自分の思いを他者へ伝える力。また、読書導入により頭と心

の整理が出来る等々、読み聞かせの持つ力が多分にある事を知ったからです。それに、何よりも生の声で語って聞かせるられるお話の世界は、心地良く、その楽しさ面白さを味わってほしかったのです。この事を教えてくれたのは私の

実母です。私の子供時分、母から昔話を語って聞かせられ、その面白さに、兄弟して涙を流し笑い転げて育ちました。その事が、何よりの心の安定感と安心感、元気の源となりました。人が「心と心の通い合い」が出来た時、大きな力を得て発揮出来る事を知っています。一冊の本を間に、読み手と聞き手が一緒に作り上げる空間を大切にしています。

目の前にいる、聞き手の呼吸を感じ取りながら読み進めると、元気がなくうつむいている子供が目に入ります。その子供に目を投げ掛けると、顔を上げ、身を乗り出して本のお話の世界に入って来てくれます。十分間といえども、とても濃密な十分間です。その十分間の為に、私自身も読書をし練習し準備をする事は、これまた楽しみであります。この活動を小学校六年間子供達と続けることが出来たなら幸

「真の生涯学習の実現を目指して」

女川町社会教育委員

千葉 幸 喜



女川町は、「うみねこ群れ飛ぶ美しい港町で、コバルトブルーの

海が輝き、新鮮で美味しい魚介類が盛りだくさんの人情豊かな港町」です。この町で暮らし、石巻で働いて六十有余年、外から見る故郷女川は、「いつも活気に溢れる賑やかな港町」そのものでした。平成十八年六月に社会教育委員を委嘱されて数ヵ月後、初冬の夕闇に寂しく消えてゆく故郷の思いがけない姿をはじめて見て、大きなショックを受けました。何とかしてこの姿に歯止めをかけ、賑やかな思いから家内を相手の議論

が始まり、そして「女川の現
状と課題、その解決策」など
をまとめた資料をつくり、そ
れを持って商工会商業部会や
スタンプ会の役員の方々など、
町内あちこちを走り回りました。

あれから五年、本町には現
在七名の社会教育委員がおら
れますが、みなさん一様に研
究心旺盛で活動熱心、しかも
情報が豊富な方々ですから、
会議開催のたびに実に多くの
ことを教えていただき心から
感謝しています。

私達は一昨年六月に町教育
委員会から、新しい時代を見
据えた「生涯学習の推進につ
いて」の諮問を受け、社会教育
委員自主勉強会を立ち上げて
これに真剣に取り組みました。

始めに行政の現状を分析、
それを基にこれからのわが町
の生涯学習のあり方について
徹底した議論を行い、導き出
した結論は、現行の行政主導
型ともいえる生涯学習から、
地域住民と行政の協働による
生涯学習への転換、更には地
域の問題・課題は地域自らが
解決する地域主体の「真の生
涯学習を積極的に推進すべき」
とし、この旨教育委員会に答
申しました。

私はこの間の勉強会を通じ
て、自らが住む町の厳しい現
状と潜在している多くの問題・
課題を認識するとともに、こ
れからは周囲の環境変化を鋭
く捉えてこれに機敏に対応す
る資質養成の必要性、併せて
社会教育委員の役割が実に多
く、かつ重要であることも解
りました。

出来ることなら、「この職
にあった者の一人として何ら
かの証をつくりたい」。そし
てこれが「活力のある町の再
生にきつと結びついていく」。
今朝も日課となっている「渚
のふれあいロード」を歩きな
がら、はるか遠くのゴール目
指してあれこれ考えています。

二十三年度

東日本大震災の
一年を振り返って

大衡村社会教育委員

齊藤 裕



昨年三月十
一日十四時四
十六分に発生
した『東日本
大震災』と東

京電力の福島県で引き続いて
爆発事故を起こした原子力発
電所の放射能漏れ事故、早い
ものであれから一年が過ぎま
したが震災前の状態には戻っ
て無い状況にあり日常生活に
も大きな負担が掛かっておる
方のご心情をテレビ、新聞等
の報道を見る度に目が潤んで
来る状況ある毎日です。

二十三年度の社会教育委員
会の活動が四月スタートいた
しましたが郡社教委の活動に
ついては大きな被災も無く何
とか消化する事が出来ました。
残りは三月最終に実施される
セミナーが大きな関心を持つ
て期待しております。仙台管
内社教委については事務局ご
担当が七ヶ浜町になっており
三・一一震災をまともに受け
られ大変な状況の中での事務
局の活動は大変なご苦労であっ

た事は理解しております。県
社教委にも色々な障害があり
事業の中止の場面も有った事
でしょう。このような非常時
の中での年間事業計画を遂行
することの厳しさはありまし
たが、何とか計画通りとは言
えませんが郡内社教委皆様
のご協力とご指導を頂き年度
末を迎えることが出来ました。
平成二十四年度社会教育関

係事業も四項目ほど新しく企
画されております。
多くの地域の皆さんの参画
意識を高める為にも地域へア
ピールしなければと考えており
ます。
今後とも社会教育委員の一
人として微力ではありますが、
大衡村の社会教育の充実発展
のために努力していきたいと
思っております。

「社会教育の変貌に
対応して」

栗原市社会教育委員

松田 正子



「皆さん、
皆さん」が
二人揃って元
気で長生きと、
もてはやされ

たのは、今となっては、何と
ものどかなムードであった。
男女の平均寿命が何年延びた
と新聞で書きたて、何か日本
が世界ですばらしい国である
かのように思えた。私は平成
八年に社会教育委員に任命さ
れたが、少子化、高齢化が真
剣に論じられ始めた頃だと記
憶している。
高齢化：「社会の年齢構成

が逆三角形であることは、そ
の国にとっても重大である」
と学者は言う。この現象は大
分前から想定されていたこと
であろう。しかし、今でも一
人暮らしの老人の孤独死、老
人家庭が実は老人の二人家族
だったりして、細やかな対応
がなされない。私が民生委員
をしていた頃に作成された福
祉ネットワークが今こそ必要
なのではないかと思う。

少子化：最近、ジュニアリー
ダー活動場面を目にすること
が少なく、寂しい思いをして
いる。やはりジュニアリーダー
に対する指導体制も一考を要
する気がする。

以前民協の全国大会に出席
したときの講師の先生の言葉
が忘れられない。
「ここに出席できることは、
皆さん自身が一生懸命やられ
たのは勿論ですが、それだけ
ではありません。家族の方々、
まわりの多くの方々の協力、
指導があったからです。その
ことを忘れずに日々励んでく
ださい。」私はいつも思い出
している。自分一人では何も
できない。
社会教育は行政と、地域住
民の共同作業であると痛感し
ている。

「社会教育の原点を 見つめ直し…」

登米市社会教育委員

阿部 洋 一



東日本大震災から一年が過ぎた。一日も早い復興を祈るばかりである。

さて「人間は教育的動物である」「教育をとおして人間が人間になり得る」等々、昭和五十五年度社教主事講習会の冒頭の講義内容である。

また、「学校教育、社会教育の担うべき役割と学社連携の重要性。自己実現に向け、生涯各期にわたる学習課題に応じた学習の必要性と学習機会提供の重要性」を熱っぽく説明された。とても新鮮に感じられた。

さらに、地域社会の連帯感や一体感が薄れ、地域の苗床的な働きが希薄化した地域社会の一人一人を、「甲羅のなにかニ」「木枯し紋次郎」に例え、地域社会の苗床的な役割をいかにして取り戻すか。地域コミュニティの重要性

について切々と説いていた。これらは、人間が人間らしく社会生活を送る上で必要不可欠なものである。

さて、「課題が山積し社会教育は危機に直面している」とか「社会教育という言葉が現場では段々と色あせている」と言う人もいる。「指定管理者制度の導入」がそう言わせる理由の一つでもあろう。

このような変革期の折りに思い出すのが、小説「上杉鷹山」である。上杉藩十五万石の財政改革を進める過程で障害となる三つの壁。①制度の壁 ②物理的な壁 ③意識(心)の壁をあげ、その中で特に難しい改革は意識の壁であると言いつつ切っている。今までの殻を破り「地域の課題・農産品の課題の把握」と「課題解決策を取り入れた目標と具体的な事業の展開」「リーダーの育成」等、当時としては画期的な取り組みを断行した。

「上杉鷹山の改革」と「指定管理者制度の導入と今後の公民館活動」共通項でくくれそうである。体育指導員、派遣社教主事等の経験を生かし、社会教育の原点、不易なるも

「感奮興起」 住民パワーの見せどころ」

女川町社会教育委員

千葉 幸 喜



平成二十三年三月十一日午後二時四十分、三陸沖を震源とする

マグニチュード九・〇、観測史上世界四番目という超巨大地震が東日本一帯を襲った。その直後、轟音を伴った大津波が太平洋沿岸部を襲い、多くの尊い生命を奪ったほか、長い年月をかけて築き上げた豊かな地域・豊かな生活・豊かなコミュニティなどの全てを一瞬にして奪い去る大災害が発生した。

この巨大地震によって女川町では、五〇〇名を超える町民が尊い生命を失い、三〇〇名を超える人が行方不明となった。また町の中核機能である役場や生涯教育センター、町

内一の高台にあると思っていた町立病院、漁業と水産の町を象徴する観光・物産センター「マリノパル」など、わが町自慢の施設や機能の全てが壊滅した。更に電気・水道等の頼みのライフラインや道路・通信網等の全てが遮断されるなど未曾有の大災害となった。

そして今、残されたのは、「壊滅した町全体を一時も早く復旧し、震災前のように豊かな地域社会・豊かなコミュニティなどを再構築すること。更に少子高齢化や人口減少等の急迫する社会問題等にも適切に対応可能な町をつくる」という極めて重要かつ困難な問題・課題である。

この取り組みの一つとして、かねてから叫ばれてきた行政と住民が協働し、かつ役割分担を明確化して現に実行するという方策が今敢えて挙げられる。

即ち、被災地の復旧・復興のためのハード事業や国または各種団体等の制度調査等については行政が行い、地域再生のためのソフト事業については住民が責任を持ってその役割を果たす。そのため、地域においては人材育成を積極

的に推進し、住民のマンパワーを十分に活かせる体制づくりと確かなルールづくりを急ぎ確立することが肝要である。初めは戸惑いや困難等も多いと思われるが、時の経過と併せてその効果は確実に見えてくると確信する。

「感奮興起」。できれば東日本大震災の被災を、「新たな時代を見据えた新しい社会教育事業及び生涯学習再構築のための好機」と捉え、地域の総力を結集して行動すべき時が今来ていると強く感じている。

二十四年度

子どもの遊び心と 地域資源を生かして

白石市社会教育委員

保科 正 信



公民館にお世話になった時、館庭にさなぎめく子どもに出会い、

ホールに招き入れ、バトミントンに興じました。休みに入り、往復一時間余かけてプー

ルにやってくるのを知り、館開放にふみきり同時に地域に働きかけ、老壮年の協力を得、弁当を持ちよって自分の得意料理を振る舞うなど話に花が咲き、語りました。

食生活の糧がごろごろしてたんですね。人間の食物とは要するに自然にある動植物のうち、長い試食の歴史の結果、可食とみなされた集大成。焼いたり、煮たり、蒸す等によって調理が生まれ、人類の生活に不可欠になり、素材と調理とがセットされ、人間の食文化は発達しました。箸の使い方等、子に語り伝える場面が徐々に広がりをみせました。『自主的や自由さ』を失わず生まれたのは、『子供の文化』でした。学校と連携を強め、各団体の協力を得て、年二回の親子ふれあい教室（史跡めぐり、沼の観察、キャンプ、スポーツへスキー教室、サッカー等）餅つき会、笹まき教室、ころ柿、しめ縄、団子さし、映画、染色、色紙教室等、地域資源をほり起こし、人的資源、物的資源を活用しました。それに週一回、子供たちと一緒に汗をかいています。自由遊びです。禁止事項

をなくし自分の責任で自由に遊ぶので、子の本心がみえてきます。ハッと気づかせる場が多々あります。環境の場づくりも考えさせられたものです。構成教材をはじめ、ポールの柔らかさを導入したのも、子供に教えられたものです。教育は共育に心がけ、子供と大人も一緒に伸びています・・・。

「地域づくりは人づくり」

名取市社会教育委員
熊谷 天津子



新たな公共の形成に資する社会教育を目指し、住民参画の地域課題解決による、地域づくりを実践している、山形県天童市高前公民館での研修会に参加することができた。

当地域の歴史的背景や、昔から現代に至るまで、官の力でなく民の力で繁栄を導いてきたという人々の思いが参画と協働による地域活性化の実践に結びついている。

今こそ自分たちが住んでいる地域を自分たちで、よりよい地域にするために学習し、学び取った知恵や技術を地域づくりや人づくりに活かすことが大事である、と、地域の課題や生活課題を見つけ、考え、討議し、行動し解決していく住民による新たな公共の形成に資する活動を行っている。

具体的に平成二十二年には、「ゴミ減量化」「地域の宝さがし」「すくすく親子新世代」「ふるさとづくり」の四部会

を設け、学習を通して地域問題解決を進めている。

各種の事業を実施することで「人と人とのつながり、絆」ができて、広がり、地域が活性化する」「生まれ育っている地域や歴史を見直し、資料にまとめ、子や孫に伝える」など効を奏している。

大震災から二年。地域社会を取り巻く環境も激変し、新たに地域づくりの構築が待たれる各地である。住民参画型で、地域活性化のために、足元を見すえ、課題を探る時である。そして、人と組織が課題解決のための実施目的を共有し、心を合わせ、総参加型

で協働し前進することが急務である。

地域には、指導力、行動力、創造力、を持つ方々が多数おいでのはず、地域の優れた人材を積極的に生かすことは新たな人材を養成していくことでもある。人と人とのつながり、かわりが広がれば地域力を高める。人が動けば地域も動く。地域づくりは人づくりである。

「行政地区での生涯学習」

加美町社会教育委員
澁谷 傳



「おじさん、何処にお城があるの。」
「だってここは城内って言うんでしょ。」

こんな質問に、これまで何回答したことでしょう。

この地区の世帯数は二四〇。町の中心部からはちょっと奥待った樹木に囲まれた閑静な住宅地で、なんとなく江戸時代の雰囲気を感じられる地域でもあります。

私はこの地区が大好きです。地区民にも大好きになって貰いたい。地区を嫌いな人に郷土愛が生まれる筈はないんです。そんな時、区長に就任。犯罪のないより明るく楽しく住みよい地区にするには、まづ地区をよく知り好きになつて貰うことだと考え、生涯学習推進員を中心に生涯学習推進部を設置し、年間事業計画のなかに二つの講座を設定した。

一、地域を知る講座

最初は地区の成り立ちとして、江戸時代の地区領主の屋敷を中心にした家中の屋敷の配置と当時の様子やその移り変わり、そして現在の様子など。次年度からは「地区を歩いてみよう」と地区内を散策、旧跡やお宝拝見。

その後、町の文化施設や企業巡りなどを実施

二、生涯学習講演会

ネパールのサチコル村で教育ボランティアとして活動している桜井ひろ子氏は水道も電気もない大昔のような生活の中で、人と人が温かく結びつき、明るく暮らしている村の様子を。江戸時代山形との交易路や信仰路と

して栄えた最上海道の話。昔ばなしと映画の集い。昨年は悲しみを胸に震災の語り部として活動している樋口氏の生々しい講話などで心が揺さぶられました。

これらの活動や事業への参加を通して住民の連帯意識が更に深まることを念じ、今後もしも地区民にとって何が大切なのか内容を精査しながら進めて行きたいと思っています。

(加美町中新田城内区長)

地域の中で育て 育ちあう仲間作り

栗原市社会教育委員

佐々木 律子



栗原の地に嫁いで二十一年が過ぎました。地域の仲間もたくさんでき、

これまでPTA活動、読み聞かせボランティア、学校支援コーディネーターなど社会福祉にいたる、さまざまな活動を共にしています。まだ駆け出しですが、社会教育委員としても自分なりにできることを楽しみながら活動を続け

ています。そういった活動のなかで、栗原市も家庭教育においてのネットワーク作りが広がってきていると感じました。子育ては家庭・地域・学校・行政の活動の連携プレーがあってこそできるもので、特に行政においてはその活動をはっきり、目に見えるものにしていかねければならないと思います。また、学校においては、学校支援地域活動をどんどん発信することでPTAと学校支援活動の役割をきちんと見極め、これからの若い世代の親たちが安心して送り出せる学校づくりや地域の力の必要性を共感しあえるPTA作りが大切になってくるのではないのでしょうか。そういった地域の支援の中で子供たちが家族だけでなく支援してくれているたくさんの地域の方に愛されているということとを心から感じ、その感じた心を地域に伝え広げていくことができれば、仲間を大切に思い支えあっていく心が育ち、いじめの無い社会へと繋がっていくことでしょう。子供たちに限らず、自分たちも「むずかしい」や「できない」と「試

してみよう」と思うことが大事だと思います。行政がきちんと土台を耕してくれ、地域の力が肥料になり、私たちコーディネーターや社会教育に携わるボランティアが協働教育の種をまく。地域に芽吹いた協働社会の芽をみんなでそだて、その芽がどこまで育っていくか楽しく想像しながら、これから社会教育委員として、たくさん仲間や自分に感謝しながら地域の中でお互いに育て育ちあう仲間づくりを続けていきたいと思っています。

大震災後の石巻市の 社会教育活動

石巻市社会教育委員

永沼 紀男



大震災から二年が過ぎました。自治体で最大の被災地石巻市の社会教育活動を報告します。

石巻市内の沿岸部コミュニティ施設、学校等が大被害を受け、社会教育の再出発の見通しはありませんでした。これは石巻地区連絡協議会の

東松島市や女川町も同じ様な状況でした。

私達社会教育委員も、自分の地域の活動はあっても、委員会開催等ともおぼつかないことで、いつ事務局と話そうか考えていたところ、大震災から三ヶ月後に、第一回石巻市社会教育委員会議の連絡がありました。

会場には、仮設住宅に住まい、すべて流されてしまい支援助物を着た委員、職員も多く、久しぶりに会った関係者同士が興奮気味に悲しい会話を交わす姿は、いまだに頭から離れません。

そのような大変な状況の中で、社会教育活動をスタートさせた事務局の熱意は、最近の活発な社会教育活動に繋がっており、積極的に協力していかねければと思っています。

大震災後、市民から社会教育の必要性の声が多くなっており、「協働」の考えを基に地域力、地域教育力の向上、人材育成、市民モラルの向上などが、震災前より活発に言われる様になりました。

現在、石巻市の社会教育基本計画の推進の中心となる仮称「生涯学習市民会議」の設

立に向けて、各方面からなるリーダー、行政等関係者が集まねております。まだ各施設の復旧もなく、拠点となるべく中央公民館の超老朽化、予算も少ない等苦しい状況の中ですが、関係者の熱意で一人でも多くの市民の参加を目指し、目標に向かって頑張る覚悟でおります。

社会教育を推進することは、街の復旧・復興のための重要な事業であると関係者一同確認しあっているところです。震災からの復興はまだ道半ばでありませんが、社会教育の推進のため精一杯活動していきたいと思えます。